日本活断層学会　主催

普及教育委員会　活断層百選専門委員会　実施

2013年　活断層フォトコンテスト

-審査結果-

講評　写真家　白尾元理氏

総評

このフォトコンテストの大きな意義は、活断層写真の優劣を競うだけでなく、埋もれている優れた活断層の写真を発掘し、学会全体として優れたアーカイブを構築することにあると思います。今回は最近撮影されたばかりの作品から20年前に撮影された作品まで、また世界各所で撮影された作品が集まりました。

最近10年でデジタルカメラの時代になり、撮影する写真数は飛躍的に増えました。デジタルカメラでは撮影年月日時分はもちろんのこと、GPS内蔵のカメラであれば、数十mの精度で位置情報まで画像ファイルに自動的に書き込めます。また過去にフィルムで撮影された画像であっても、スキャナーで読み込んでデジタル化すれば、簡単なソフトを使ってそれらの情報を書き加えることが可能です。位置情報が加えて入れば、Google Earth等で現地情報をすぐに得ることができます。

一人一人が撮影した写真の数は数万枚であっても、活断層のアーカイブに値する写真は数百枚だと思います。とりあえずは一人が百枚ずつ、これぞという写真に情報を加えてアーカイブ化するのはいかがでしょうか。来年のフォトコンには、その中から数枚を選んで、数行のキャプションを付けるだけで応募できます。来年は、そのような作品が多数集まることを期待します。

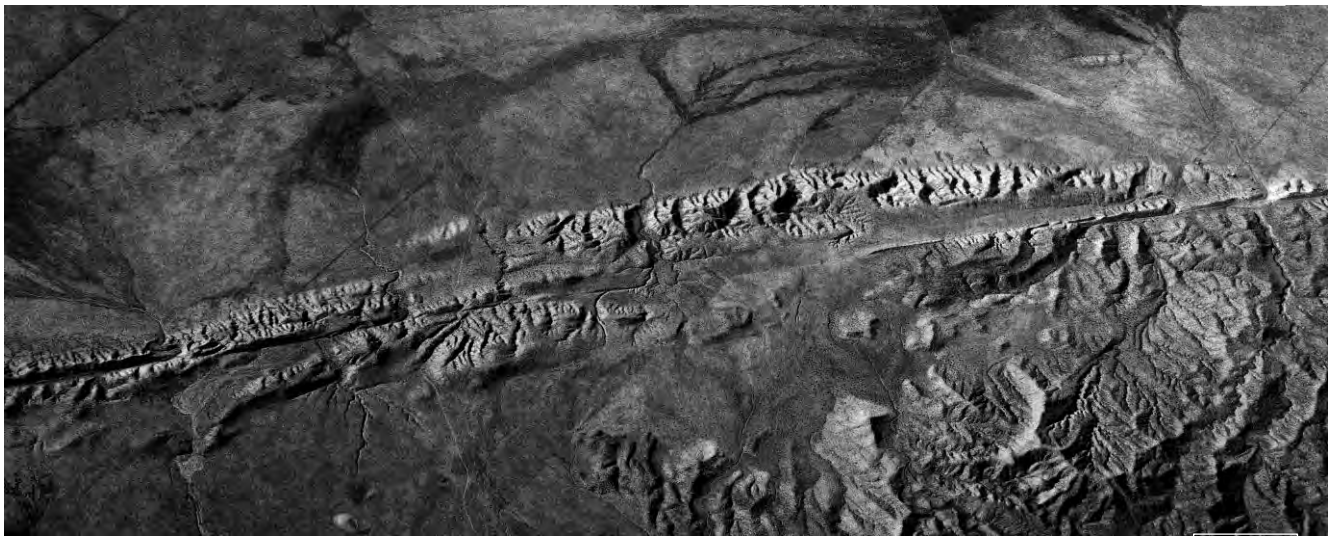
注：本フォトコンテスト結果内の写真と作品説明・位置図などの著作権は，応募者と日本活断層学会に，また講評は当学会に著作権がありますので，これらを活断層の普及・教育に活用していただく際，応募者名と活断層学会から引用したことを明記してくださるようお願い致します。無断での引用・ご使用はご遠慮下さい。

最優秀賞

奥村晃史（広島県）

作品名：「The San Andreas fault in the Carrizo Plain」（組写真）
活断層名：サンアンドレス断層　アメリカ　カリフォルニア州

No.1



No.2

No.3

作品説明：日本・サンフランシスコから南カリフォルニアに向かう便は普通海岸上空を飛び，サンアンドレアス断層はＡ席から遠くに見えるだけで写真にはならない．2013 年９月４日，United Airlines 33 便，成田発ロサンジェルス行きは珍しくサンアンドレアス断層北東側のテンブラー山脈上空を飛行した．右側のＬ席しか取れなかったため断層展望は諦めていたが，モントレー湾を覆う雲が切れると，チョラメバレーが見え断層北東側を飛んでいることがわかった．やがて，なじみ深い断層地形が真下に拡がった．一枚目は Elkhorn Hill 中部の Dragon’s Back，二枚目はその北方の Elkhorn Hill を横切る河川の屈曲，三枚目は Wallace Creek 付近の断層と屈曲する河川群である．地形の説明は必要ないだろう．
撮影地点：Carrizo01: N35.14--W119.59, Carrizo02: N35.18--W119.64, Carrizo03: N35.30--W119.77. All: 33000 ft（図中の Carizzo は Carrizo が正しい）

講評：ロザンゼルス北西 150 ㎞のカリゾー平原はサンアンドレアス断層を空撮する絶好の場所です。私もセスナ機をチャーターして空撮したことがありますが、セスナの上昇限度は約 4000 m、もっと高い高度から撮影できればと悔しく思ったことがあります。この作品では、1 万ｍ程度の高々度から断層にそってサンアンドレアス断層の特徴ある場所を 3 個所ピックアップしています。
作者の説明によると、成田発ロザンゼルス行きの定期便からの撮影ということです。たままた通常とは違うコースを飛行したようですが、サンアンドレアス断層の地形が頭に入ってなければこれだけの写真は撮れません。細長いトリミングとモノクロ写真にしたのも印象的です。

No.1 カリーゾ・プレイン国定公園
https://www.google.com/maps/@35.1150965,-119.6462419,5062a,35y,180h/data=!3m1!1e3?hl=ja-JPN
No.2 カリーゾ・プレイン国定公園
https://www.google.com/maps/@35.1439333,-119.6880896,5067a,35y,180h/data=!3m1!1e3?hl=ja-JPN
No.3 カリーゾ・プレイン国定公園
https://www.google.com/maps/@35.2720337,-119.8301597,5029a,35y,180h/data=!3m1!1e3?hl=ja-JPN

優秀賞

三浦半島活断層調査会（神奈川県）

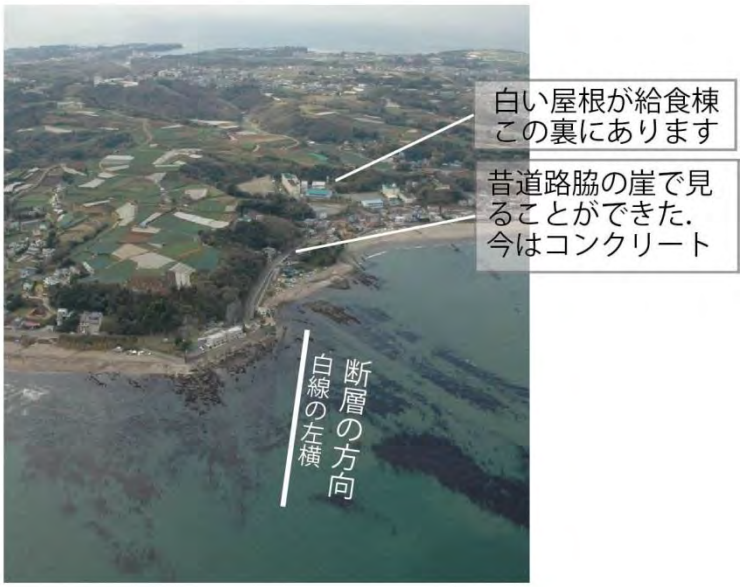
作品名：**海に伸びる南下浦断層**

活断層名：南下浦断層　三浦市南下浦海岸

作品説明：海岸線の露頭を追いかけて断層・地層の調査を行っているが、海に伸びる地形の確認をしたかったところを、湘南平塚 PPG(パワードパラグライダー)の協力を得て撮影しました。海岸から鬼の洗濯板みたいに延びる（北東方向に）地層からすれば、４５度の角度（東南東）に断層が見えます（説明図参照）。この３点は直線状に並んでいます。なお、白い屋根がネットで出てくる南深浦中学校の給食棟になります（堀内弘栄氏－2007_04_21 三浦半島・南下浦断層帯を歩くー）。

講評：今回は、地上から撮影した南下浦断層の応募もありましたが、パワードグライダーから撮影したこちらの方がわかりやすい作品となっています。このような空撮では、天候、潮の満ち干、撮影時刻などいろいろな条件をクリアーしなければならないのが難点です。最近流行の複数のローターをもつ無人マルチコプターでの活断層撮影も現実味を帯びてきました。

撮影位置図

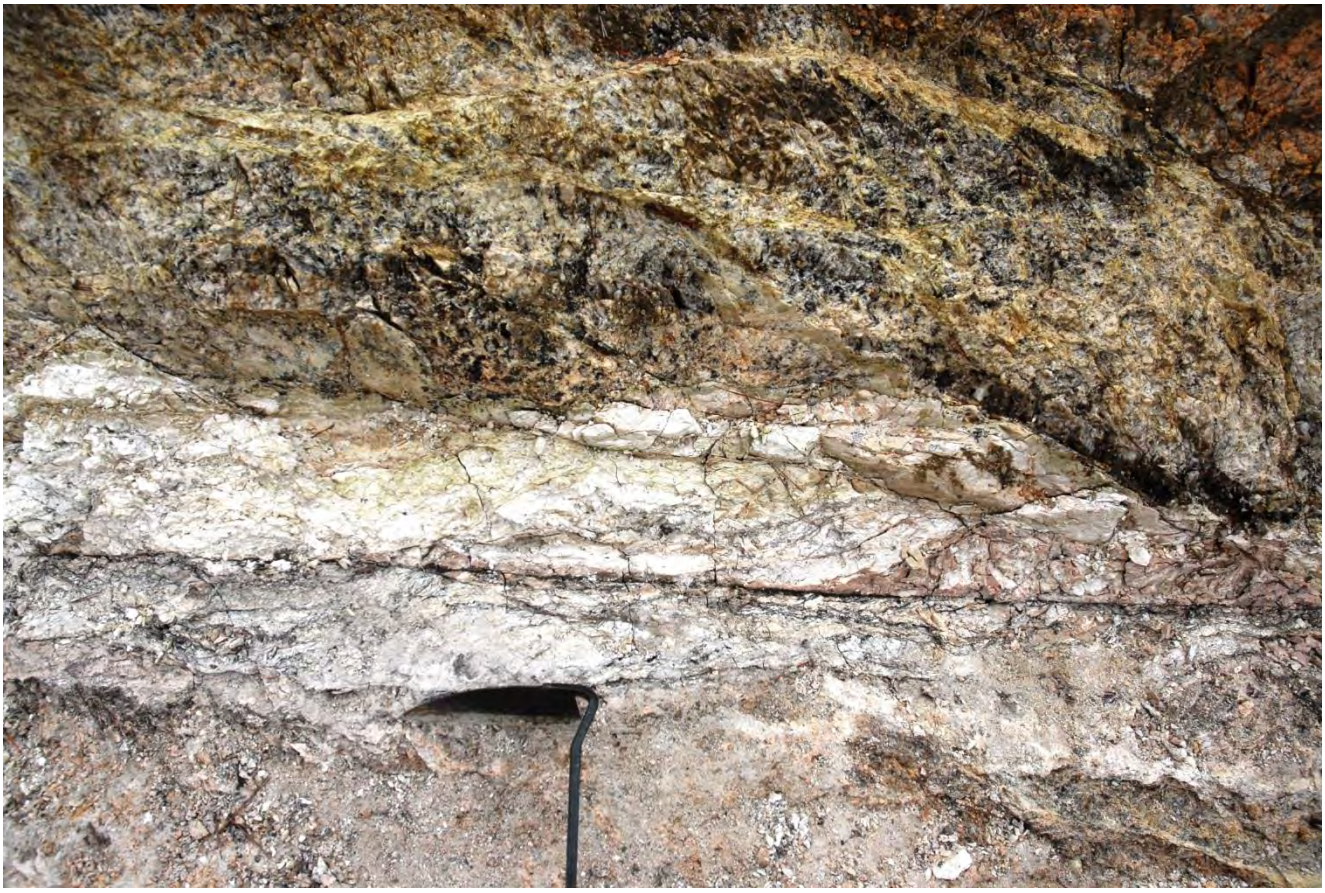


国土地理院発行　都市圏活断層図　三浦半島断層群

http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html?lat=35.170346&lon=139.656114&z=14&did=std&lkey1=fm&lopa1=0.84

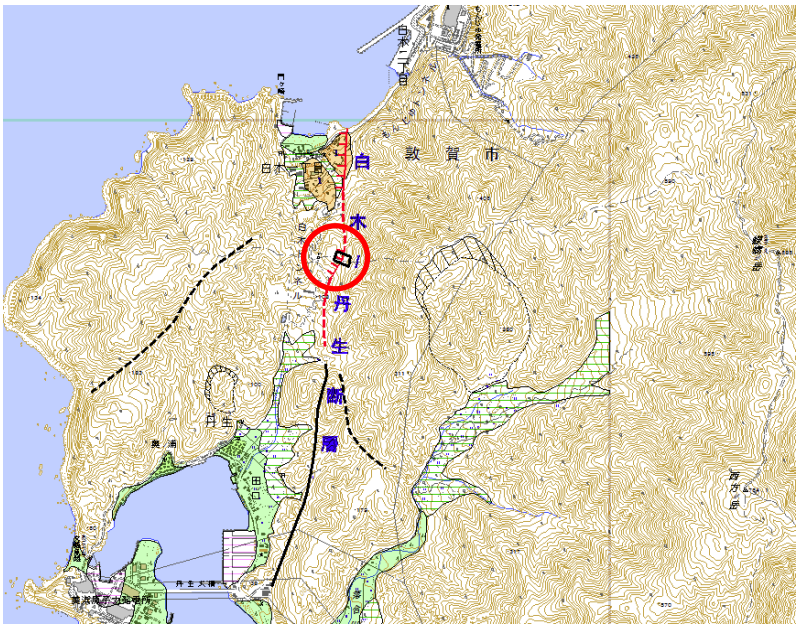
佐々木亮道（福井県）

作品名：**じぇじぇ。なしておらのこと調べてるの？**
（花崗岩中に幅広い破砕帯を伴う活断層）（組写真）
活断層名：白木―丹生断層　福井県美浜町



作品説明： おらの仲間たちが時々新聞や TV を騒がせているのは，なして？
おらのところにも時々，難しい顔をしたおじさんたちがいろいろ調べにくるんだ。
「もんじゅ」と「美浜原発」が近くにあるためが？
もんじゅ君と美浜ちゃんとは，おら，昔から大の仲良しなんだ。
んだども，時々おら，ストレスがたまり過ぎてぶちキレることがあるんだ。
んー，そんなときでも，もんじゅ君と美浜ちゃんには迷惑かけないようにしたいなあ・・・。

講評：クリーニングされたばかりの白木−丹生断層の全体写真を主として、そのクローズアップ、美浜原子力発電所との関係がわかりやすく説明されています。本来、重いテーマの組み写真でありながら、タイトル・説明ともにユーモラスで、ウィットに富んだ作品です。



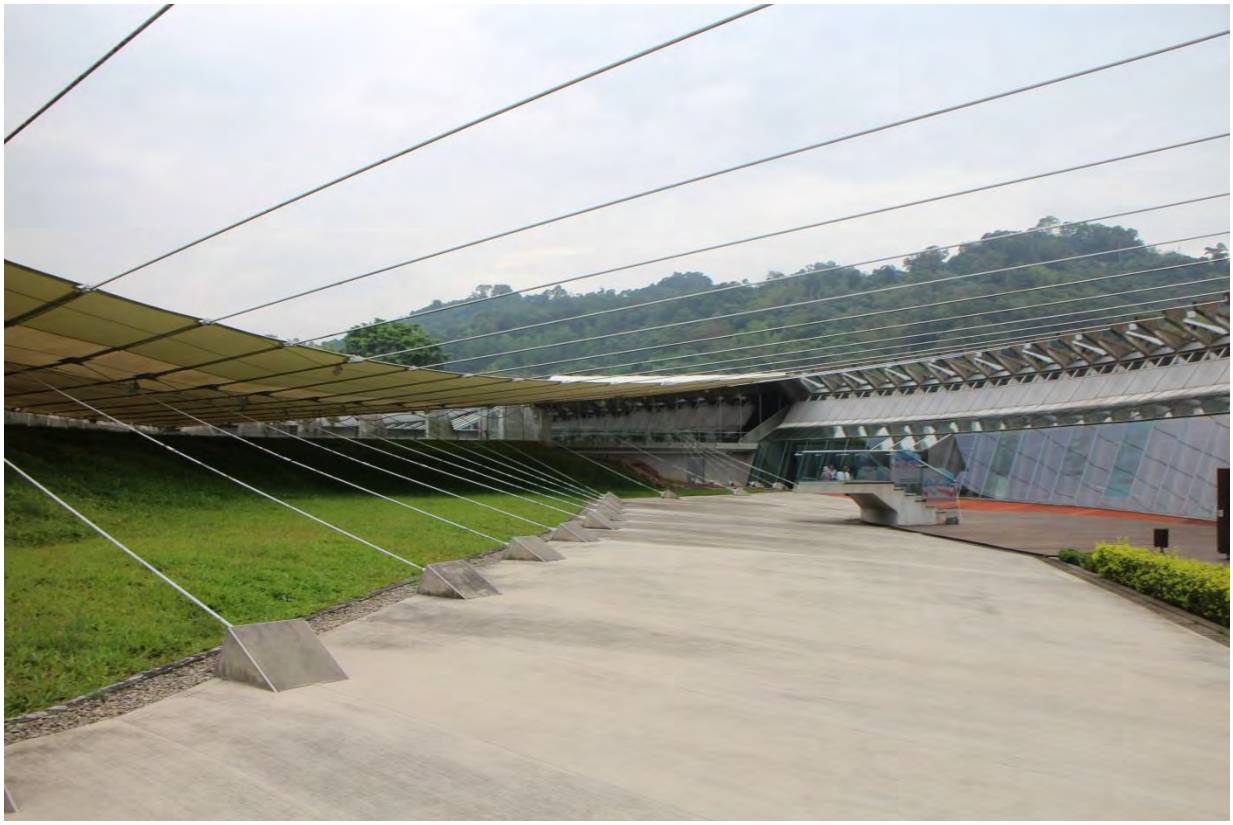
撮影位置図

http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html?lat=35.726949&lon=135.986012&z=14&did=std&lkey1=fm&lopa1=0.84

豊蔵　勇（愛知県）

作品名：**9.21 集集地震断層を学ぶ－台中県光復中学校**（組写真）

活断層名：シャロンポー断層　台湾台中市霧峰区



作品説明：1999 年 9 月 21 日 1 時 47 分発生した九二一大地震の震源断層であるシャロンポー断層が地表地震断層として台中市霧峰区光復新村の光復中学グランドに現れた。当時，日本から多くの研究者や技術者が訪れているところであるが，現在その跡地は，台湾国立「921 地震教育園区」に指定されて，立派な地震・防災・耐震建築が学べる断層博物館が建てられている。野外学習の小学生のみならずウィークデイにもかかわらず一般の見学者が多数来ており，説明員から話を聞いているのが印象深かった。

講評：1999 年 9 月 21 日、台湾中部に発生した集集地震で動いた車籠埔断層の最も有名なのが、光復中学のグランドを押し上げた露頭でしょう。そこに建てられたのが車籠埔断層保存館で、2001 年 2 月に開館したもののようですが、組写真を見ていると多くの見学者がおり開館したばかりの保存館に行ったような気分になります。館内の写真では、断層前に立つ人の位置にもう少し気を配りたかった。

「台湾地理人文全覧図北島５万分の１」より（台湾の公式地図帳：車籠埔地震断層の位置が破線で表示されている）
撮影位置：
https://www.google.co.jp/maps/place/921%E5%9C%B0%E9%9C%87%E6%95%99%E8%82%B2%E5%9C%92%E5%8C%BA/@24.0530736,120.6934585,13z/data=!4m2!3m1!1s0x0:0xe8f02c2b6cf62aee
（Google Map で教育園区内の通路からのストリートビューが可能ですのでお試しください）

入　賞

渡辺萬久（東京都）

作品名：**新旧扇状地面群を切る活断層**

活断層名：天山山脈南麓　新疆ウイグル自治区 Korla（庫爾勒）西方

講評：この作品を最初に見た時、アメリカ南西部かと思いましたが、テンシャン山脈南麓の断層でした。植生がない地域では、扇状地を切る活断層はわかりやすいものです。この作品は太陽高度の低い早朝あるいは夕方の撮影なので、扇状地左のわずかな断層崖もあざやかに捕らえています。

撮影位置図

東経 85 度 44 分 09 秒
・北緯 41 度 52 分 40 秒
～
東経 85 度 48 分 17 秒
・北緯 41 度 52 分 00 秒

中心付近位置：https://www.google.com/maps/@41.86775,85.7708441,3493m/data=!3m1!1e3

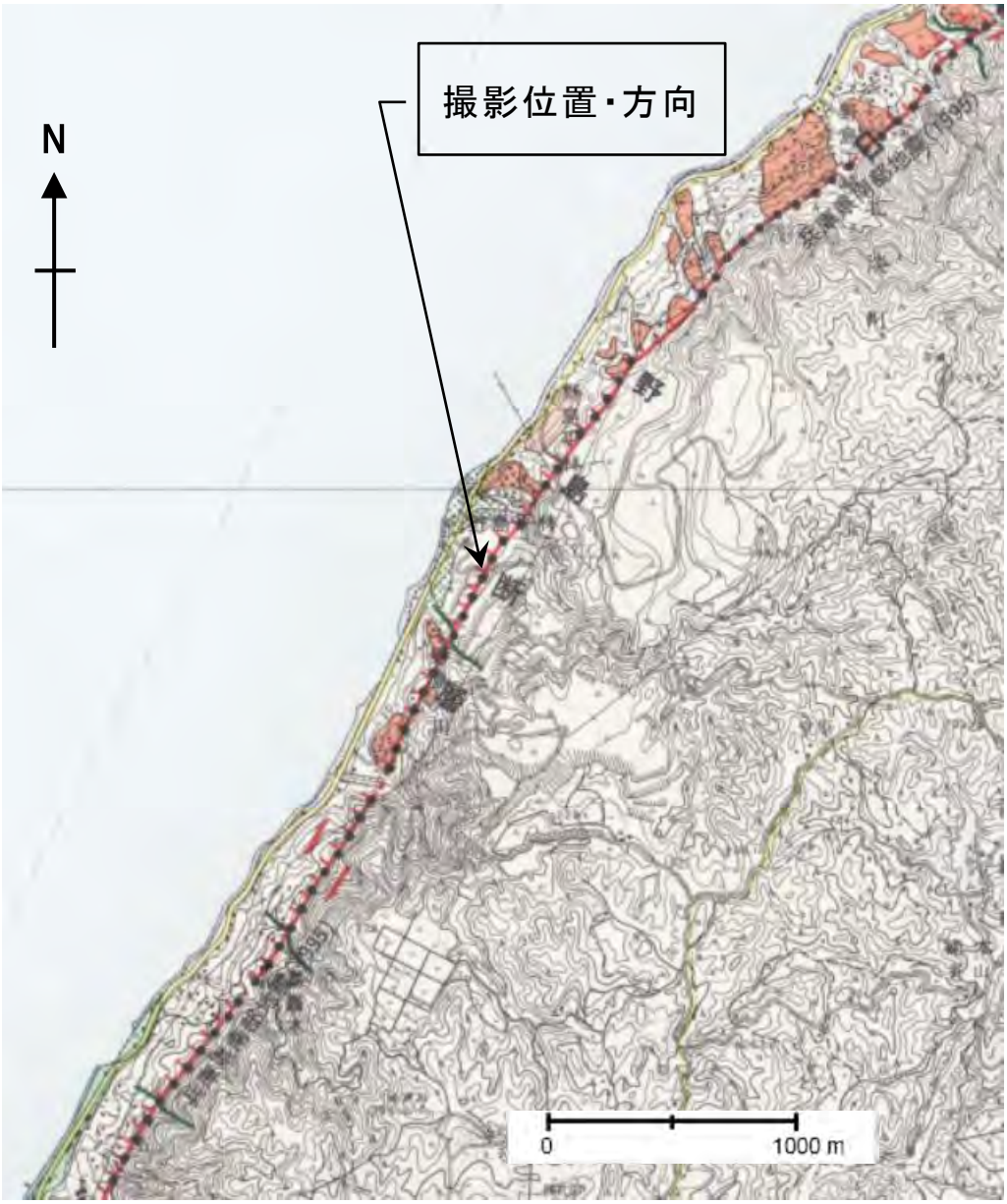
太田陽子（東京都）

作品名：野島断層平林における断層崖の形態の時間に伴う変化（組写真）

活断層名：野島断層　淡路市野島平林

これらの写真は，野島断層についての特別なセッションに応募したもので,いずれも野島断層の地形の表現に関するものである．4 枚組の写真は，典型的な断層崖が形成された平林地区の断層崖の時間に伴う変化を記録したもので，兵庫県南部地震から3日目で，すでに上部の礫層の崩壊がはじまった．オーバーハングした断層崖の崩壊はきわめて急速であったことがわかるが，断層崖形成後約 1 年後に所有者により崖地形は除去された．

講評:1995 年 1 月 17 日に起こった兵庫県南部地震で活動した断層です。4 枚 1 組での応募ですが、その内 3 枚は同じ位置からから撮影されたものです。写し込みデータでは 95 年 1 月 21 日と 96 年 1 月 20 日で、残り 1 枚はその後、しばらくしてから撮影された写真だと思います。この 3 枚だけの組として断層の永年変化を示す形で応募された方がスッキリしました。



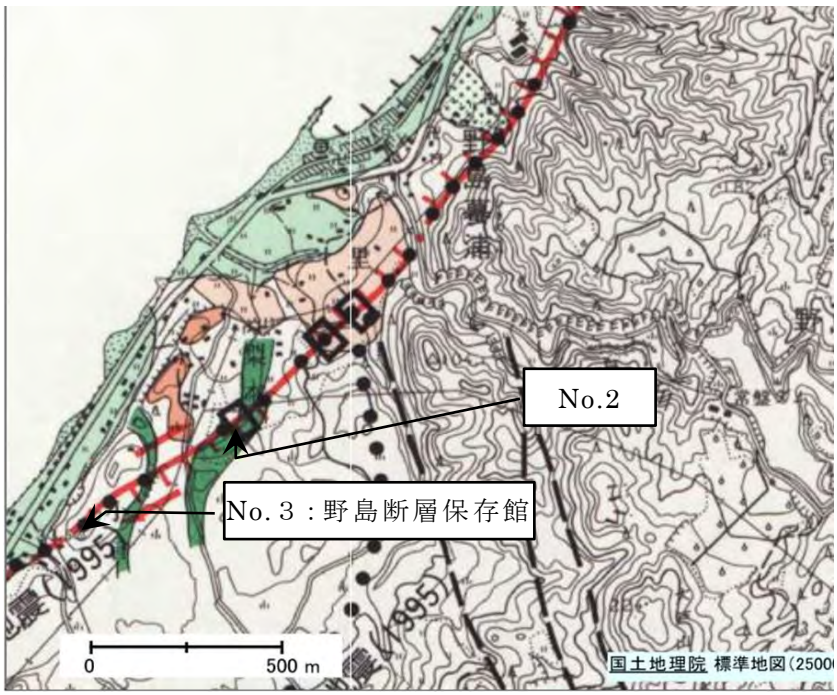
http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html?lat=34.582441&lon=134.971151&z=14&did=std&lkey1=fm&lopa1=0.84

太田陽子（東京都）

作品名：**野島断層の異なる地形表現**（組写真）
活断層名：**野島断層**　淡路市平林－梨本－小倉

作品説明:これらの写真は，野島断層についての特別なセッションに応募したもので,いずれも野島断層の地形の表現に関するものである．3 枚組の写真は地盤条件の差による断層地形の差異を示すもので．いずれも断層形成後間もない時期に撮影したものである．A は平林地点での断層崖で，右横ずれと東上がりが明瞭．B は沖積低地での雁行割れ目，C は基盤のシルト岩を切る断層崖である．この崖の一部は断層記念館に保存されている．

講評：この作品は現在、北淡震災記念公園になっている場所で、民家のすぐ側の地震断層が話題になりました。地震後 19 年も経っているので写真の褪色が気になります。貴重な写真なので、オリジナルのネガ・ポジをスキャナーで読み込み、デジタルデータとして保存することをお薦めします。



撮影位置図

No.１の撮影位置は，別の入賞組写真の場所淡路市野島平林に同じ。下記ウエブ・アドレスは，国土地理院発行・都市圏活断層図における撮影場所 No.２を示したもの

http://portal.cyberjapan.jp/site/mapuse4/index.html?lat=34.552275&lon=134.942229&z=15&did=std&crs=1&lkey1=fm&lopa1=1

陳文山（台湾）

作品名：いまは博物館（組写真）
断層名：車籠埔断層　台湾南投県竹山鎮集山路

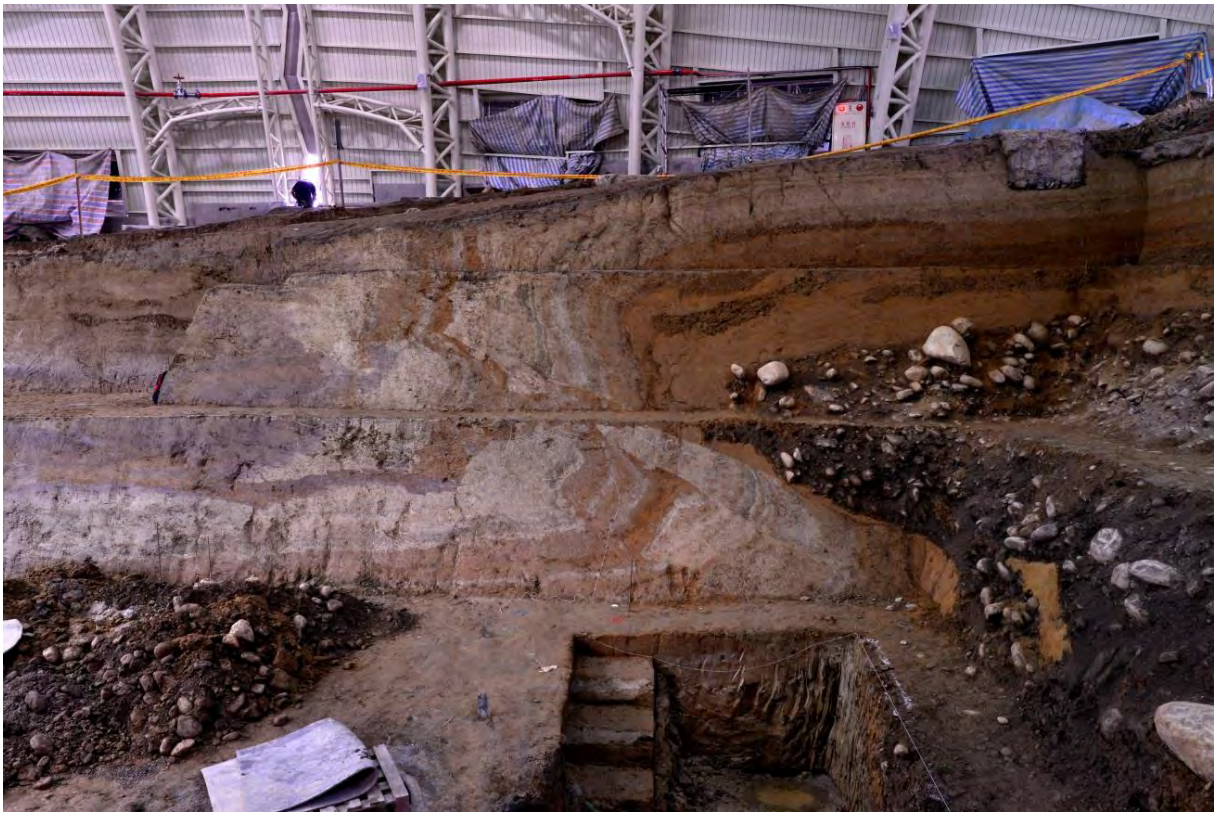
【この断層が，次の作品の断層観察館内の 1 枚目の写真の断層と同じであることに注意（当委員会による説明）】

撮影位置図

国立自然科学博物館車籠埔断層保存園区　断層槽溝（トレンチ）保存館及地質科学館
「台湾地理人文全覧図南島 5 万分の 1（台湾の公式地図帳）」より（車籠埔地震断層の位置が緑色破線で表示されている）
撮影位地：https://www.google.com/maps/@23.794202,120.712672,16z?hl=ja-JP

Shin-Ho Lee（台湾南投県）

作品名：**車籠埔断層槽溝（トレンチ）保存館**（組写真）
断層名：**車籠埔断層**　台湾南投県竹山鎮集山路



前作品の位置が断層観察博物館として保存されたもの。

特別賞

鈴木康弘（愛知県）

作品名：

" World longest seismic fault" of 1905 Bulnay Earthquake, Mongolia

断層名：Bulnay Fault モンゴル

豊蔵　勇（愛知県）

作品名：1999.9.21 集集地震断層と名間の送電鉄塔遺構（組写真）
活断層名：シャロンポー断層　台湾　南投懸名間郷

傾斜を計れる大きな分度器が設置されている

作品説明：1999 年 9 月 21 日深夜 1 時 47 分マグニチュード（Mo）7.6 の集集地震が発生し、死者は約 2500 名、負傷者 10000 名に及んだ。震央の南投県集集の西方 10ｋｍ西方の名間では、シャロンポー断層の地表変位は 4m 程度に及んだ。

鉄道線路には大きな段差が生じるとともに、送電鉄塔が断層をまたいでいたため傾斜したが倒壊は免れた。これらを保存した地震断層公園は、震災後 14 年を経て訪れる人が少なくなって荒れている模様。東日本大震災の津波被災遺構は多くが解体されているようだが、後世の教訓として残す際の参考となろう。これらの様子を記録したものである。

撮影位置図

南投懸名間郷　地震斜塔紀念地

9.21 地震斜塔遊憩区

http://www.ttvs.cy.edu.tw/kcc/960407w/921.htm

「台湾地理人文全覧図北島５万分の１」より（台湾の公式地図帳：車籠埔地震断層の位置が破線で表示されている）

Google map 上の次の Web address の Street View で見ることができる。

https://www.google.com/maps/@23.832181,120.710043,3a,75y,20.37h,86.6t/data=!3m4!1e1!3m2!1sCKgaQ4pb_MJvVClHh5k1eQ!2e0